

令和4年度 医療情報の理解促進に関する研修会のテーマについて

1 概要

- ・「患者の主体的な選択・判断の実現」「患者と医療従事者のより良い関係の構築」を目的とした研修会を開催する。
- ・患者が主体的に選択・判断するためには、患者自身が医療情報を正しく理解する必要がある。そのためには、患者に医療情報への理解を促すことが欠かせないことから、本研修の受講対象は、業務や事業を通じて都民（患者・家族等）に医療情報への理解を促す機会を持つ関係機関の職員等とする。

2 開催時期 令和4年12月～令和5年1月頃を予定

3 研修会テーマ（案）

（1）患者と医療従事者の協働に向けたコミュニケーション

【趣旨】

「患者中心のコミュニケーション」は患者と医療従事者、両者の協力で実現される。患者の能力（ヘルスリテラシー・価値観・情報への欲求など）によって、医療情報への理解度や意欲は変わるため、医療従事者は、患者個々の状態等に応じた対応方法を選択することが求められる。事例を通して、複数のコミュニケーションモデルとその使い分けを学ぶ。

（2）患者の「怒り」との付き合い方

【趣旨】

患者の「怒り」は単なる心理的な問題からだけでなく、様々な要因によって引き起こされている。精神的・身体的な苦痛が怒りによって表現されることもあるため、そのようなサインを見落とさず対応することが重要である。ただ要求を受け入れるのではなく、患者の気持ちを尊重しつつ、患者・医療従事者双方のためになるケアの実践法を学ぶ。

<平成29～令和3年度開催実績>

平成29年度	2月14日(水) 15時～17時	■人生の最終段階における医療とケアのあり方 ○本人・家族とともに考える意思決定	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦氏	120名
平成30年度	2月8日(金) 15時～17時	■ACP(アドバンス・ケア・プランニング)のすすめ方 ○その人らしく意思決定するために	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦氏	118名
令和元年度	2月13日(木) 15時～17時	■ヘルスリテラシー向上のために医療従事者ができること ○適切な情報提供のあり方を考える	聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 中山和弘氏	121名
令和2年度	開催なし	—	—	—
令和3年度	2月1日(火)～ 3月18日(金)	■いま知っておきたい、患者との関わり方 ○リスクコミュニケーションとオンライン診療— (1)医療従事者が知っておきたいリスクコミュニケーション (2)実臨床におけるオンライン診療の現状と今後の展望	(1)株式会社グローバルヘルスコミュニケーションズ代表 蝦名 玲子氏 (2)医療法人社団M-FOREST みやざきRCクリニック院長 宮崎 雅樹氏	293名 (申込者)